

平成 29 年度(第 61 回)

# 岩手県教育研究発表会

## 確かな学び、豊かな学びをつなぐ

～主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業改善～

多数のご参加ありがとうございました。

さる2月8日(木)・9日(金)に、花巻温泉、総合教育センター及び生涯学習推進センターを会場として、第 61 回岩手県教育研究発表会を開催いたしました。県内外から2日間でのべ 2,700 名を超える参加者を迎えての開催となりました。

研究発表会の3年間の継続テーマである「確かな学び、豊かな学びをつなぐ」を受けて、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」をサブテーマとしました。

1日目の午前中は、開会行事(主催者挨拶 教育長 高橋 嘉行、基調説明 教育次長 岩井 昭)、全体会では講演会(講師 京都大学教授 高等教育研究開発推進センター教育アセスメント室長 溝上慎一 氏)と総合教育センター研究発表(発表 総合教育センター 主任研修指導主事 新沼 健)を行いました。

全体会の講演会では、溝上慎一 氏から、新しい時代に求められる資質・能力と結び付けながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の方向性についてのご示唆をいただきました。

総合教育センター研究発表では、総合教育センターが2年間進めてきた研究成果を発表し、その後、溝上慎一 氏から研究の成果と課題について講評をいただきました。

午後は、「知・徳・体」を柱とした特設分科会1「確かな学力(知)」、特設分科会2「豊かな心(徳)」、特設分科会3「健やかな体(体)」、そして、「異校種間連携／学校経営」分科会、「幼児教育／幼小接続」分科会を開催しました。

特設分科会1「確かな学力(知)」では、平成 29 年度の先進実践校の取組を発表していただき、その後、学力保障に向けた学校の組織的対応と、諸調査等に基づいたエビデンスの活用について考える機会となりました。

特設分科会2「豊かな心(徳)」では、本県の研究指定校による実践発表が行われ、その後、宇都宮大学大学院准教授 和井内 良樹 氏の講演をいただきました。

特設分科会3「健やかな体(体)」では、児童生徒の発達段階に応じた主体的な学びに焦点を当てた実践発表が行われ、その後、日本体育大学教授 野井 真吾 氏の講演をいただきました。

開会行事・全体会には 665 名、特設分科会1は 237 名、特設分科会2は 192 名、特設分科会3は 82 名、「異校種間連携／学校経営」分科会は 81 名、「幼児教育／幼小接続」分科会は 65 名の参加者を得て、大変充実した内容となりました。

2日目は、各教科領域・教育課題等 16 分科会において、93 主題の授業実践、研究成果が発表されました。それぞれの分科会ではパネルディスカッションやポスターセッションなどを取り入れたり、講演会を実施したりと運営に工夫を凝らし、興味深い発表や活発な協議をする場になりました。それぞれの発表の成果が、これからの岩手の教育に実際に活用されることを期待しています。

ご多用の中、講演講師、パネリストを務めていただいた先生方、研究発表された先生方、また、発表者を推薦してくださいました関係各機関、企画展に出品していただいた関係各位、さらに、開催にあたってご支援、ご協力を賜りました花巻温泉のスタッフをはじめ関係各位、皆さまに心から感謝を申し上げます。

## 開会行事

### 主催者挨拶



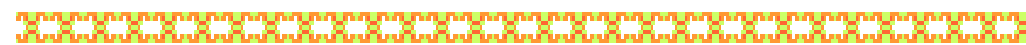
県教育委員会 教育長 高橋 嘉行

高橋 嘉行教育長は、「震災からの教育の復興」を優先課題と捉え、第3期復興実施計画に基づき、引き続き、学びの場の復興に全力で取り組むとともに、「人を育む教育は社会形成の礎」との認識の下、「いわて県民計画」や「岩手県ふるさと振興総合戦略」に基づき、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を備え、調和のとれた人間形成に向け、本県の教育の充実を目指していくことについて述べました。さらに、本研究発表会テーマ「確かな学び、豊かな学びをつなぐ」を通じた「豊かな人間の育成」は、まさに学習指導要領の目指す「新たな時代を切り拓く資質・能力の育成」につながるものであり、学習指導要領の本実施に向けた具体的な授業改善のあり方を確認する場としたいという、本研究発表会の目的と意義について述べました。



県教育委員会事務局 教育次長 岩井 昭

岩井 昭教育次長は、本研究発表会テーマ「確かな学び、豊かな学びをつなぐ」を受け、新学習指導要領が示された我が国の教育改革を背景とし、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」をサブテーマとして設定したことについて説明しました。そして、サブテーマを受け、「社会に開かれた教育課程」、「育成を目指す資質・能力」、「主体的・対話的で深い学び」、「カリキュラム・マネジメント」、「各教科等の特質に応じた見方・考え方」といったキーワードで文脈をつなげながら、学習指導要領等の改訂の趣旨や理念等について理解を深める場とする、本研究発表会における全体会の位置付けについて説明しました。



## 全体会(講演会、総合教育センター研究発表)

### 講演会



京都大学教授 高等教育研究開発推進  
センター教育アセスメント室長  
溝上 慎一 氏

溝上 慎一 氏は、大学(高等教育)における取組や学生の実情、社会状況及び産業構造等の変化について、調査研究等に基づいた根拠を示しながら、なぜ、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善が必要なのか、新しい時代に求められる資質・能力と結び付けながら、明快にご教示くださいました。その中で、「深い学び」だけで成立するものではなく、「対話的な学び」が伴うことが重要であるという点に触れ、外化のプロセスが様々な思考力の育成につながっていくモデルを示し、実際の授業場面を取り上げながら授業改善の方向性についてご示唆くださいました。

総合教育センター研究発表



県立総合教育センター  
主任研修指導主事 新沼 健

県立総合教育センター 主任研修指導主事 新沼 健が、「見方・考え方」を鍵とした「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、資質・能力を適切に見取るための評価方法等の工夫に焦点を当て、各教科を貫く研究概要及び考え方について、総合教育センターが2年間進めてきた研究成果を発表しました。

溝上慎一 氏からは、本研究で提案した「単元構想シート」が資質・能力と授業改善とをつなぐ重要なツールとなり、こうした視点から授業改善に取り組むことは、今後どの校種においても重要になってくると、本研究を価値付けました。併せて、各教科等を横断して育成する資質・能力の必要性を挙げ、汎用的な調査項目を取り入れた検証を行うことによって、授業改善の成果や課題を一層明確にすることができるという点についてご教示くださいました。



特設分科会1「確かな学力(知)」



奥州市立水沢南小学校 教諭 大坂下 勝江  
八幡平市立西根中学校 副校長 石積 康弘  
盛岡市立高等学校 副校長 丘村 亜己

岩手県教育委員会では、「確かな学び、豊かな学びプロジェクト」の推進に当たり、学校の組織的対応と、諸調査等に基づいたエビデンスの活用を柱に、取組を進めてきました。

特設分科会1では、「各種調査等に基づいた学力向上に係る学校全体での組織的な取組」について、平成29年度の「先進実践校」である奥州市立水沢南小学校、八幡平市立西根中学校、及び盛岡市立高等学校の取組事例を発表していただきました。各学校が自校の取組を見直し、学力保障取組のブラッシュアップのためのヒントを得る機会になりました。

<趣旨説明>

学校教育課 指導主事 菅野 弘

<実践発表>

「諸調査結果を活用した、組織的な学力向上の取組」

実践発表1	奥州市立水沢南小学校	教諭	大坂下	勝江
実践発表2	八幡平市立西根中学校	副校長	石積	康弘
実践発表3	盛岡市立高等学校	副校長	丘村	亜己

<協議>

登壇者	奥州市立水沢南小学校	校長	佐藤	良
	八幡平市立西根中学校	校長	佐藤	亥壺
	盛岡市立高等学校	校長	及川	晃貴

<助言>

学校教育課 主任指導主事兼学力向上担当課長 米 慎 司



## 特設分科会2「豊かな心(徳)」



宇都宮大学大学院 准教授 和井内 良樹 氏

平成 30 年度から、小学校を皮切りに本実施となる「特別の教科 道徳(道徳科)」、その改善・充実に向けて、県内各学校では道徳教育の整備とともに、様々な授業改善の取組がなされています。

特設分科会2では、新学習指導要領の趣旨や考え方についての説明、本県の研究指定校である岩泉町立二升石小学校による実践発表を通して、これからの道徳教育の在り方、道徳科における授業改善の方策等について理解を深めました。そして、宇都宮大学大学院准教授 和井内 良樹 氏から、発問を中心とした具体的な授業づくりや道徳科における評価の基本的な考え方についてご講演をいただきました。

### <説明>

学校教育課 主任指導主事 武藤 美由紀

### <実践発表>

「自己の生き方について考え、友達や他者と関わりながらよりよい生活を送ろうとする児童の育成  
～問題解決的な学習を取り入れた道徳の時間の工夫を通して～」  
岩泉町立二升石小学校 教諭 猪鼻 裕之

### <講演>

「これからの道徳教育と道徳の時間の展開」  
宇都宮大学大学院 准教授 和井内 良樹



### 特設分科会3「健やかな体(体)」



日本体育大学 教授 野井 真吾 氏

子供時代の楽しかった運動や遊びの体験や、科学的な理解が、生涯にわたる望ましい生活習慣・運動習慣継続の原動力となります。  
特設分科会3では、児童生徒の発達段階に応じた主体的な学びに焦点を当て、雫石町立七ツ森小学校及び雫石町立御所小学校、奥州市立胆沢愛宕小学校、岩手県立山田高等学校による3つの実践発表、そして、日本体育大学教授 野井 真吾 氏による講演を通して、望ましい生活習慣・運動習慣を形成するために必要な資質・能力の育成について学びを深める機会にすることができました。

#### <趣旨説明>

保健体育課 主任指導主事 鈴木 雅 孝

#### <実践発表1>

「楽しんで運動習慣の形成を図るための一工夫」

雫石町立七ツ森小学校 副校長 佐々木 伸 也

雫石町立御所小学校 教諭 山 根 一 志

#### <実践発表2>

「運動を楽しみ、元気な体と心をつくる子どもの育成～授業づくり、体力づくり、健康習慣づくりの取組を通して～」

奥州市立胆沢愛宕小学校 教諭 吉 田 道 子

#### <実践発表3>

「生涯を通じて健康を保持増進できる生徒の育成～生徒の主体的な活動を通して～」

県立山田高等学校 養護教諭 小 菅 光 恵

#### <講演>

「子どものからだと心が求める生活習慣、運動習慣を考える！」

日本体育大学 教授 野 井 真 吾



## 分科会－18 分科会実施－



## 参加者の声～アンケートから～

発表会にご参加いただいた皆様に、会運営や所員等の発表内容について、アンケートを実施しました。

<おことわり> ●アンケート回収枚数は 763 枚(昨年 796 枚)です。●割合の合計は、端数処理のため 100 にならない場合があります。●未回答があるため、所属校種の合計はアンケート回収枚数と異なります。

( )は昨年度

所属校種	幼稚園等 保育所	小学校(義務教育学校前期課程)	中学校(義務教育学校後期課程)	高等学校	特別支援学校	その他
上段:回答数	32(47)	280(322)	256(248)	93(84)	62(57)	21(33)
下段:割合%	4.7(5.9)	37.6(40.7)	34.4(31.4)	12.5(10.6)	8.3(7.2)	2.8(4.2)

全体会	名称	大いに 参考になった	参考になった	あまり参考に ならなかった	参考に ならなかった
人数[割合%]	講演会	230 人[66.5%]	107 人[30.9%]	8 人[2.3%]	1 人[0.3%]
	総合教育センター発表	123 人[36.7%]	185 人[49%]	26 人[7.8%]	1 人[0.3%]

特設分科会の 満足度	分科会	大いに 参考になった	参考になった	あまり参考に ならなかった	参考に ならなかった
人数[割合%] 延べ回答数: 291	特設1[知]	59 人[50.9%]	53 人[45.7%]	4 人[3.4%]	0 人[0%]
	特設2[徳]	67 人[52.8%]	57 人[44.9%]	3 人[2.4%]	0 人[0%]
	特設3[体]	41 人[85.4%]	7 人[14.6%]	0 人[0%]	0 人[0%]

アンケートの  
記述から

(抜粋)

- 日々の研鑽や今回の発表に向けての並々ならぬ準備をされてきた発表者の皆様、会の運営に携わってこられた方々に敬意を表します。一つでも現場で活かしたいと思います。授業についていくのが厳しい生徒への対応についても今後学ぶ機会があれば幸いです。目先のことも大事ですが、最終的には溝上先生のお話にもあったように、どんな人に生徒を育てるか、人として何が大切かを踏まえて私も教育活動にあたりたいと思いました(その他)。
- センター職員の皆様を中心として、県教育委員会、各教育事務所、市町村教育委員会の方々のご尽力により、素晴らしい研究成果の発表、実践の取り組みの紹介をいただき、大変ありがとうございました(高等学校)。
- 学校教育から「仕事社会」への接続・移行という視点の内容は大変興味深かった。10年後、20年後の世の中を見据えながら、今何をすべきか、今後、具体的に何を取組んでいけば良いのか、子ども達の姿と現在の学校体制を見つめ直し、学校教育の再構築に向けて検討を重ねていきたいと痛感した(小学校)。
- 次期学習指導要領をしっかりと見据えたいと思いました。単元シートなど、本日紹介いただいた研究内容を取り入れていきたいと思います。盛りだくさんの内容でしたので、いただいた資料を職場でも共有し熟読させていただきます(高等学校)。
- (特設分科会1)各学校の実践について、校長の立場からの説明があった点により、組織としての経営に関する視点も大変わかりやすく、参考になりました(中学校)。
- 特設分科会3の日体大の野井先生の講演内容が大変興味深いもので、今後の子ども達への指導に生かしてみたい点がたくさんあり、とても有意義なものとなりました(中学校)。
- 国語分科会において、阿部昇先生の講演がとてもおもしろかったです。「深い学び」とは何だろうと思いましたが、具体的にその例を知ることができて、聞いていてワクワクしました。抽象的な表現ではなく、はっきりと具体的に明示していただけると納得できることを実感しました。自分も同じように子どもたちがワクワクするような授業をつくりたいと感じました(中学校)。
- 外国語、外国語活動部会の発表内容は、すべてが先進的で大変勉強になりました。特に単元構想、評価について参考になりました。平木先生のお話では、学習指導要領の改訂のポイントについてくわしく学ぶことができました。ありがとうございました(小学校)。
- (情報教育分科会)遠隔の授業はこれから必要になってくる新しい形態になるのだと感じました。次々と教育現場も変化の波がきている時期なので、しっかりと対応したいと考えさせられました(特別支援学校)。
- 特別支援学校に所属しているが、通級等のお話を聞き、通常校の様子(特別支援の様子)がよく分かった。地域で学びたいと思っているが支援学校の子どもたちもいるので、通級での成果・課題を支援学校側からの視点で知ることができてよかった(特別支援学校)。

★アンケートにご協力いただきました皆様、ありがとうございました。今回のアンケート結果を来年度の研究発表会の運営や所員等の研究推進に生かしていきたいと考えています。来年度も先生方の多数のご参会をお待ちしております。

[センターのホームへ](#)